

厚生労働大臣表彰受賞おめでとうございます！

厚生労働大臣表彰受賞者



一般社団法人栄養ケアチーム豊能
認定栄養ケア・ステーション
山下 晶子（栄養指導業務功労者）



泉大津市立病院
佃 暁子（栄養指導業務功労者）



大阪市立大学医学部附属病院
塚田 定信（栄養改善事業功労者）



大阪成蹊短期大学
谷口 信子（栄養士養成功労者）

栄養指導業務功労者

現在、栄養士の免許を有する者であって、常に第一線に在って実際の栄養指導業務を担当し、栄養士としての活動に特に顕著な功績を有すると認められる者として、大阪府が厚生労働省に推薦し受彰されたものです。

栄養改善事業功労者

栄養改善事業の普及向上、栄養士、管理栄養士制度の発展向上、栄養行政に対する協力等に特に顕著な功績があったと認められる者で栄養関係団体の役職従事年数が10年以上または栄養に関する有益な研究、考察を行い、事業の発展に特に顕著な功績があったと認められる者として、大阪府が厚生労働省に推薦し受彰されたものです。

栄養士養成功労者

現に栄養士、管理栄養士養成施設の設立者（法人にあつてはその代表者）、施設長又は教職員であつて栄養士、管理栄養士養成のため特に顕著な功績があったと認められる者として、大阪府が厚生労働省に推薦し受彰されたものです。

厚生労働大臣表彰を受彰して

泉大津市立病院 佃 暁子

これまで厚生労働大臣表彰を受けられてきた素晴らしい功績の先輩方を見てきましたが、思いもかけず私が頂けるなんて、身に余る光栄と恐縮しています（新型コロナウイルスのせいで表彰式が行われないのが残念ですが）。これもひとえに皆様のお力添え、ご指導があったのことにと思います。心より御礼申し上げます。

私は新卒で民間病院に就職し、現場を教え込まれ調理師の方と食器洗浄・調理・盛り付け・配膳を長いビニールエプロンをかけ、動き回っていました。土日もなく、早出も月10回、13日連続出勤もしました。早出業務が終了したら栄養士業務を教えてもらい、得意の暗算で発注業務、献立作成、集団教室開催・・・。栄養指導を教えてもらうことはなく、自ら学べと言われ、自分の指導をテープレコーダーに吹き込み、先輩に聞いてもらい、指導を仰ぎました。

今は当たり前前のオーダーリング、電子カルテ、パソコンでのWord・Excel・PowerPointですが、就職した当初はどれもなくて手書き、手計算仕事が終わってからパソコン教室に通い、秘かに学びました。けれど出産（産後3か月で復帰）、育児もあり、主人の協力がほとんど得られない中だったので（主人は深夜まで仕事）仕事も育児も全力でした！と目の回る日々でした。

泉大津市立病院では糖尿病集団教室はもちろんですが、バイキングを導入した集団教室、腎臓病教室、脂質異常症教室、高血圧教室など対象患者がいれば、様々な教室を開催してきました。NSTや緩和ケア、褥瘡ケアなどチームでの活動は、楽しくやりがいもありました。

産後の患者さんの食事、病院食を感じさせないおいしい食事を提供すべく改善を重ねてきました。子どもに提供しているお子様ランチも好評です。

栄養指導では、患者さんに受けてよかったと言っていたいただき改善していくのを見ることは嬉しく、私に元気を与えてくれました。

大阪府栄養士会では理事をすることにより、憧れの栄養士仲間と話もでき、貴重な体験も数多くさせていただきました。感謝感謝です！

食事で身体は変わる！元気な人を増やして日本をもっと元気にしたい。微力ながら努力していきたいと思います。

同年代の人で、もう年だから・・・という人が周りにいますが、年を重ねるのも悪くないなあと思う今日この頃です。若い時の特権はないけれど、今だからこそできることをどんどんして、楽しんでいきたいと思っています。

ありがとうございました。

一般社団法人栄養ケアチーム豊能 認定栄養ケア・ステーション

山下晶子

この度は、厚生労働大臣表彰をいただき、身に余る光栄に大変うれしく思うと同時に、心引き締まる思いです。

大学卒業後、食品会社の研究開発室に就職し、いくつかの新商品に関わりました。今はそれらの商品は、市場からなくなっていますが、長く勤めたいと思っておりました。しかし子育て支援の体制がまだない状況で、退職いたしました。子育てをしながら、臨時栄養士として保育所や病院勤務をしていたころ、池田保健所の在宅栄養士養成の研修会に参加し、在宅栄養士会を立ち上げることになり、現在もいけだ地域栄養士会葉菜の会で活動をしています。

その後、池田市内での特別養護老人ホームの開設から栄養士としてかかわる仕事をする事になり、様々な老人ホームを見学し、少しでも入所者に喜んでもらえる食事作りを目指していた時もありました。また、百貨店の従業員食堂の栄養士も経験しました。その時に短時間で栄養相談ができればと思い、体脂肪測定器を利用した健康相談会を始めました。今はコロナ禍で中止を余儀なくされていますが、約20年続いている事業です。現在は百貨店の福利厚生部で、従業員の健康管理部門とかかわりを持っています。

2014年には、「国循のご当地かるしおレシピプロジェクト2013」に葉菜の会として応募し、「だし・うま味賞 定食部門」をいただきました。葉菜の会メンバー一丸となって取り組んだことは、強く印象に残っています。

この職場で長く勤めて深く栄養士業務に携わりたいと思って仕事を始めても、その時の制度や組織の都合で転職や異動を余儀なくされてきました。それがかえっていろいろな経験となり、今の私があるのだと思っています。またその時々先輩栄養士の方々にご助言いただき、助けていただきました。今でもとても感謝いたしております。

3年前に大阪府栄養士会の登録栄養ケアチームを立ち上げ、昨年には認定栄養ケア・ステーションの認定を受けました。地域に根ざした管理栄養士・栄養士を目指し、健康的な食事をとることの大切さを仲間と一緒に伝えていきたいと思っています。訪問栄養指導など制度的な壁がまだまだありますが、食事が整ってくると生活が落ち着いて、皆さんが笑顔になっていくことを何度も経験しています。食を通して、笑顔あふれる社会になればと、これからも努力していきたいと思っています。ありがとうございました。

厚生労働大臣表彰を受彰して

大阪市立大学医学部附属病院 塚田定信

この度の厚生労働大臣表彰（栄養指導業務功労者）をいただいた背景には、職務期間中に共に働く諸先輩、同僚、そして管理栄養士・栄養士として共に歩む皆様のご支援、ご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

中でも、栄養食事指導にも少し慣れ始めたころから取り組ませていただいた腎不全に対する「超低たんぱく食事療法（VLPD）」では、食事療法の理論だけでなく、患者さんお一人お一人と向き合ったオーダーメイドな食事療法に心がける良い教訓を得たように思います。栄養食事指導の理論に加え、一步深く食品の選択、調理法、さらには治療用特殊食品の開発まで管理栄養士間の切磋琢磨だけでなく、患者さんとともに進めてこられたことが後の人生での大きな支えになったものと考えます。

また、今一つこれまでの私の栄養士活動において大きな指針となった「アドヒアランス」という薬学用語があります。従来の「コンプライアンス」概念（患者は治療に従順であるべき）から、「ノンコンプライアンス」事例をどのように解決するのか、ここにこの「アドヒアランス」概念があります。本来の意味するところとは異なるのですが、この理論を栄養食事指導に当てはめたとき、なぜこの食事療法が実行、継続できないのかを患者さんとともに考え、相談の上解決していく、これが栄養食事療法を患者さんの生活に融合できる重要な指針と思い活動してまいりました。

今後近い将来、情報のデジタル化や AI 技術が進化し、私たち管理栄養士・栄養士の活動にも大きな変化が訪れるであろうことは想像に難くありません。しかし、栄養管理を必要とする全ての対象者お一人お一人と向き合う活動には、十分な必要性と期待があります。

今後も微力ながら、これまでの経験を活かし今少し管理栄養士としての活動を続けていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

最後に、今回の受賞に際しご配慮、ご尽力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

大阪成蹊短期大学 谷口信子

このたびは、栄養関係功労者に対する厚生労働大臣表彰をいただき、身に余る光栄に恐縮しております。この栄養大阪の紙面をお借りして、一言御礼申し上げます。

管理栄養士養成課程および大学院を卒業して 32 年、調理師学校講師を経て大阪成蹊短期大学にご縁をいただき、栄養士養成に携わって 26 年目になりました。着任当時は、学生にどんな栄養士を目指してほしいかということに考えが及ばず、ただ授業を行うことに必死でした。その後、給食現場での経験のない私が「給食管理」を担当することになり戸惑いましたが、前任の先生や助手さんの指導の下、今日に至るまで講義、学内給食実習及び校外実習を担当しております。特に、校外実習先を訪問して現場の管理栄養士・栄養士の皆様から教えていただいたことは、私にとって大きな財産となりました。時にはお褒めいただき、また時には厳しいご意見をいただく中から、学生に何を身につけてほしいのか、どんな栄養士に育ててほしいのかを自分自身に問いかけるきっかけをいただいたと感謝しております。

また、2011 年に大阪ガスの方に薦められ、「弁当の日」提唱者の竹下和男先生の講演に参加しました。「はなちゃんのみそ汁」のスライドショーに感動し、そこから「食育」を実践する場が大きく広がり、同じ思いのお仲間にも恵まれました。2012 年から本学で「弁当の日」に取り組んで 10 年、今年で第 9 回となる「食育シンポジウム」や子どもを対象とする料理教室、地域の高齢者への健康教室などに学生を巻き込んで行ってきました。このことが影響したかどうかのエビデンスはありませんが、栄養士で就職する学生が確実に増えました。現在、学科長という立場で教育だけでなく、募集から就職支援まで仕事の幅が広がっている中で、支えていただいた大阪成蹊学園の教職員の皆様、多くの卒業生への感謝でいっぱいです。新型コロナウイルスの感染拡大で、昨年来大学での教育の在り方は、大きく変化しました。これからも思いがけない事態が起こるかもしれませんが、変化に柔軟に対応し、社会に必要とされる栄養士を育てて参りたいと思っておりますので、今後ともご指導いただきますようお願いいたします。